

〈目的〉日本の女子大生の食意識と食行動の実態については、先に報告したが、今回は急速に発展変容している韓国の同世代の女子大生、並びに福岡在住の韓国留学生について食意識と行動、食文化の継承について実態を把握する目的で本調査を実施した。

〈方法〉1.実態調査 対象：韓国女子大生（大邱大学校他）300名に調査用紙を配布し回収率54%、福岡在住韓国留学生60名のうち回収率80% アンケート方式で自己記入、一部は現地で聞き取り調査。期間：昭和60年8月～11月、昭和61年11月 内容：体位体型、健康状態、日常食の内容及び行事食などについて 2.代表的な韓国料理を復元して、栄養価算定を行なった。

〈結果〉韓国女子大生の平均身長、体重は160.4cm、49.4kgで、肥満度はヤセタイプが多い。食生活では糖質、タンパク質の摂取量が低く、食品ではゴマ油、ニンニク、野菜の摂取量が極めて高い。主食では米飯が53%を占めているが、朝食で主食なしの学生は40%、卵は1日1個は34%、牛乳1日1本摂取する学生は45%であった。甘い菓子・飲物の摂取頻度は少ないが、留学生では食生活は日本化され、甘い菓子や飲物が多く摂取され、油やニンニク入り料理の頻度は減少していた。又、キムチは韓国女子大生にとっても必要不可欠な常備食品であり、自分の国の料理に誇りを持っていた。次に伝統的行事食は形式、内容ともに簡易化されながらも現在に継承され、中でも重要視されるものは、秋夕（盆）、次に正朝茶礼（正月）であった。韓国の食文化を通し、女子大生を見ると儒教の教えが根底に生きづいていることが伺えた。